

研究主題

活用力をもち、心豊かでたくましく生きる児童の育成



本校における心豊かな児童について

「心の豊かさ」を育成するために本校が目指す児童像

自他のよさや違いを共に認め合い、自分の思いを伝え合える子
こうした児童を育成するために、自他を受け入れて、自分からコミュニケーションを取り、表現できるために、自己肯定感と自己有用感を高める必要があると考える。

【表1 発達段階に応じた目指す児童像】

低学年	自分と友だちのよさに気づき、自分の思いを伝え合える子
中学年	自分と友だちのよさや違いを分かり合え、自分の思いを伝え合える子
高学年	自他のよさや違いを共に認め合い、自分の思いを伝え合える子

研究仮説

仮説1 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、意図的な言語活動(表現力)を中心とした学習指導法の工夫・改善を行い、それを支える学習規律の徹底を図ることで、「活用する力」が育成されるであろう。

仮説2 校風・家風づくりとして、学校・家庭・地域が一体となった共同活動や道徳教育における「人と人のかかわり(絆)」を軸としたコミュニケーション能力、体育的活動の充実などを通し、自己肯定感と自己有用感を高めることで、「心豊かでたくましい子」が育成されるであろう。

仮説の検証のための手立て

【仮説1に迫る手立て】

○基礎的・基本的な知識・技能の習得

- ・「基礎・基本系統表(国語・算数)」を元に、学習用語、学習事項の系統性を重視した授業の展開。学習内容を明確にした板書を行う1時間の授業の展開とノート指導。学習タイム等を活用した繰り返し学習反視写、漢字テスト、計算テストの実施。

○意図的な言語活動

- ①低・中・高ごとの「発表の仕方」「話し合いの仕方」「自分の考えの書き方」の掲示物や「話型リーフレット」の活用。
- ②表現力の育成
 - ・自分の考えを書いて表現する活動(文字言語による表現力の向上)
 - ・自分の考えをペアなどで順番に伝えて表現する活動(音声言語による表現力の向上)

○人とかかわり合いを育む場面

- ・話し合い、交流(ペア、3~4人グループなど)

○活用問題にあたる「ぐんぐん問題」

- ①職員による問題と解説の作成(国語・算数)
- ②学年便り裏面に算数・国語の問題を交互に掲載し、児童・保護者への啓

発を図り、家庭の意識を高める。

③学年便りに掲載同様の問題を各月の第1週目(学習タイム)に実施。その日のうちに答え合わせを行い、振り返る。

○学習規律・学習習慣系統表の改善を行い、学校と家庭における学習基盤を作る。

地域の方より先に大きな声であいさつした児童

A (90%以上)と

B (70%以上)の割合

「あいさつ日誌」より

〈保護者調べ〉

【仮説2に迫る手立て】

○「熊谷の子どもたちは、これができます！」

4つの実践!(アクセル)と3減運動(ブレーキ)の推進

○三増運動(読書+家庭学習+家族との会話)

・読書・家庭学習・家族との会話の目標時間の設定と評価(通知票に記載)

○校風・家風づくり部の活動

①家庭と連携したキャンペーンテーマを保護者と学校の合同会議で決定。実施には家庭と学校で連携し、生活規律・生活習慣の改善を行う。

②キャンペーンを通して、地域の方々とのふれあいや、親と子、児童と教師、友だち同士といった様々な人との関係を結び、合同会議で検証する。

③取り組みの評価や取り組みの成果を共有する。(たより、通知票)

○自己肯定感と自己有用感の高まりを目指して

①ソーシャルスキル学習の定着(年間5回:特別活動との連携)

②「ふわふわ言葉」(思いやりのある言葉)の作成・掲示。

③道徳授業からのアプローチ【重点項目の精選】

1 主として自分自身に関すること

2 主として他の人とのかかわりに関すること

④学校・家庭との連携

「今月の道徳」の時間を設定(月1)。価値項目に迫る場面での児童の思い等、連絡帳に書き、家庭に知らせる。

・教室内に数名の児童感想を掲示し、学校と家庭、地域とで共有する。

○体育的活動からのアプローチ

①人とのかかわり合いをはぐくむ場面の設定

・励まし合い、話し合い、見合い・教え合いの場面

②自分の夢や目標を自己決定する機会を設ける。(「のびゆく西の子」記入)

④着実にやりぬく強い意志の育成(50m走、サーキットコース、長縄跳び、持久走など)

研究組織

